

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700217		
法人名	社会福祉法人 元気の里とかち		
事業所名	グループホーム元気の里(おとふけ)		
所在地	北海道河東郡音更町宝来仲町南1丁目4番地1		
自己評価作成日	平成27年1月12日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、かつて喫茶店だった家屋を改装・増築して利用しており、古くから地域にお住まいの方々にとって馴染みのある建物となっている。
入居者の身体状況・認知症の進行具合などが重度化しているが、職員一同で協力し合い、転倒による怪我などの事故・入居者同士のトラブルなどが起こらないよう観察力を高め、日々のケアにあたっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL /index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700217

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成27年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成12年介護保険がスタートした年に特定非営利活動法人として設立された「元気の里」は、音更町に法人最初のグループホームとして、かつて喫茶店だった家屋を改装、増築して開設されています。現在は社会福祉法人に改変されていますが、「利用者満足」「尊厳の保持」「個別支援の充実」を理念に定め、地域に根差した福祉を作るために取り組み、利用者を有りのまま受け入れ、活力ある生活が送れるよう支援しています。建物はバリアフリーではありませんが、職員は細部に気を配った介護に努めており、何よりも一人ひとりが身近で親しみのある関係が出来ており、温もりのある生活を送っています。管理者と職員は信頼関係が築かれており、課題があると皆で取り組み、解決しています。現在、管理者は系列のグループホーム管理者で構成され、管理者会議の中で研修体制や介護計画、介護記録の充実を目指すべく提案をして取り組んでいます。管理者、職員は共にモチベーションが高く、心のこもった温かいケア、一人ひとりのニーズに応えるケアを追求し努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義は踏まえていないが、全事業所共通の理念あり。各自、実践している。	法人の理念、ケアの理念を事務所、玄関の目に付くところへ掲示したり、パンフレット、重要事項説明書に記載して利用者家族へも説明しています。職員会議の議論の中で、理念が基本だと、振り返りを行っています。平成27年度には目標を決めて取り組む事としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加するなど交流の機会はあるが、年に数回あるのみ。今後は、より地域に馴染めるよう工夫が必要である。	町内会行事や事業所行事に双方で参加交流を行っています。グループホームの理解を得るために町内向けのお便りを発行して回覧しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講習会といった形ではないが、運営推進会議にて認知症の特性などを紹介する時間を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて入居者の動向・入退院の報告を行っている。挙げた意見は謙虚に受け止め、今後に活かせるように努めている。	運営推進会議は年6回、利用者家族・町担当者・民生委員・町内会役員・有識者等の出席を得て、活動・利用状況・今後の予定等の報告を行い、質疑・意見を得て運営に活かしています。日常の様子報告は写真を添付して行っています。	利用者家族への案内はしていますが、欠席した家族への情報共有の体制構築を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは定期的に、空き状況・待機者情報をお伝えするなど連携している。	町担当者とは事故報告や毎月の待機者情報、SOSネットワークや高齢者虐待防止の研修情報等で訪問し、日常的に協力関係を構築しています。また、町から毎月2名の介護相談員の訪問があり利用者の状況確認を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準を正しく理解しているとは言えないが、全職員が常識の範囲内で、身体拘束をしないケアを実践している。	管理者、職員は身体拘束の弊害や指定基準における禁止対象となる具体的な行為について研修やマニュアルで正しく理解しています。現在は不適切な言葉や声掛けが無い介護を目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全員ではないが、虐待防止についての研修を受けている。虐待の兆候を見逃さず、日々のケアを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と一部職員を除き、現在まで権利擁護について学ぶ機会は無いが、今後研修会などあれば参加を促していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際、管理者が各書類を説明し、納得をいただいた上で押印・契約としている。また、事前に施設見学も実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を表せる場は設けていないが、面会時に要望などをお聞きし、可能な範囲で対応している。	利用者とは日々の会話の中で要望を把握し、家族とは毎月の利用料の支払い時に話をして意見や要望を把握するよう努めています。利用者の日々の様子は不定期ですが便りでもお知らせしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、管理者は職員と面談を実施している。そこで出た意見は、管理者から法人代表に伝えている。	毎月の職員会議では、サービス担当者会議、モニタリング、運営についての議題で話し合いがもたれ、その中で職員からの要望や意見を得ています。その他系列グループホームの管理者による管理者会議で介護や運営について協議し、役立てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境面については課題が山積しており、整備に努めているとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を2ヶ月に一度、実施している。その他、GH協会や他施設が実施する研修への参加も呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修への積極的な参加を呼びかけるなど、同業者とのつながりを持つ機会としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に面談を実施。その他でも、安心して新しい生活を始めてもらえるよう声掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソン及びご家族には、不明な点があればすぐに相談してもらえるようお伝えし、信頼していただけるような関係づくりに配慮。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談の際、病状の注意点やニーズを伺い、必要な支援を把握し、ケアプランへと反映している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をするだけでなく、お手伝いをしてもらうなど、一方的な関係にならないよう関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払い時・通院時など、最低でも月に一度は本人に顔をみせてもらうようお願いしている。GHに預けっぱなしの状況にならないようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に外出をし、馴染みの人と再会が出来れば良いが出来ていないのが現状。ご家族等にお願いし、GHに来所いただくなどの支援が必要と思う。	利用者の馴染みの関係が出来ている理容室へは、通えるよう事業所で支援しています。また、散歩の時に会って話し込んだり、友人の訪問があり、関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが絶えずあり、職員は仲介する事が多い。孤立している訳ではないが、入居者同士が仲良くしてもらえるよう、支援が必要である。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった場合、受け入れ先に生活状況等をしっかりお伝えし、出来るだけ統一的・継続的なケアを実施してもらえるよう配慮している。		
III					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向に沿えるよう努めている。職員だけでは無理な場合には、ご家族に協力を依頼する。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は利用前に生活歴や情報を得て意向に沿えるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで愛用されていた物品を居室に持ち込んでもらう等、それまでの暮らしに少しでも近づけてもらえるような配慮をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが入居者個々の状態を把握している。統一した対応が必要が場合には、職員会議で話し合いを行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議と同時にサービス担当者会議を実施。入居者の現状に合致した内容のケアプランになるよう努めている。	介護計画は基本的に6ヶ月に一度行っており、モニタリングもそれに合わせて行っています。サービス担当者会議へ家族の出席はありませんが、事前の訪問時に把握し、介護計画に反映させています。	利用者全員の介護計画情報を職員全員で共有し、ケース記録へ反映する体制構築を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録・業務日誌の記入は毎日実施。その他、口頭での申し送りも行い、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な歯科通院など、主治医以外を受診する場合、可能な限り職員で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しても、なかなかそれを活かせないのが現状。より安心した生活が送れるような配慮が必要である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHが医療連携している病院もご紹介するが、入居前から受診していた病院への受診も可能であると、お伝えしている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で、受診は家族対応を基本に、状況に応じて管理者が同行支援しています。又、月1回、医療連携病院による往診も行われ、適切な医療が受けられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う状況あれば、町内の病院に通院し、適切な医療的処置をしてもらうよう依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ面会に行ったり、その際、病院スタッフと情報の交換をしている。前もつての関係づくりは、機会がなく未実施。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徐々に状態が低下してきた場合、今後に向けての話し合いを医師も交えて行う。	重度化、終末期については契約時に看取り指針を基に説明し同意書を交わしています。利用者の状態変化に応じて家族や医師を交えた話し合いを行い、可能な範囲で支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、職員によって差があるのが現状。消防署に依頼しての救命講習を、職員全員が受講するよう促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は実施している。入居者ごとに避難経路を想定し訓練を実施した為、ある程度のシミュレーションは出来ている。	26年度年間避難訓練計画により夜間想定訓練や緊急連絡網、伝達・捜索訓練、協力業者によるスモークマシンを使った避難訓練、消火訓練を実施しています。緊急連絡網には地域住民の登録、役割、避難場所も明確になっており、地震・風水害等、災害対応マニュアルも確立されています。	
IV					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員とは言えないが、各入居者の認知症の種類、性格、特徴を把握した声掛けや関わりを行い、それぞれに適した対応を常に模索している。	管理者、職員は研修を通じて認知症に対しての理解を深め、利用者一人ひとりの人格を尊重した声掛け、対応を心掛け、本人の心に添ったケアに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者により認知症の程度も様々な為、表現も異なるが、大体の方は自分の意見を表出することが出来る。こちらからも意見を表出できるような声掛けを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は基本的に自由な為、買い物や散歩等の希望があれば、状況を見ながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者からおしゃれに関する訴えが聞かれたことは無いが、行事等の前に男性であれば髪や髭が伸びていたら散髪へ付き添う、女性であれば近くの美容室に行き散髪する、化粧を施す等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の能力に応じて、味噌汁をついでもらう、もやしの髭取、大根をおろす、食器拭き・片付けを手伝ってもらっている。	献立は、毎日利用者と相談しながら決めています。利用者のできることはやって貰えるよう声かけをし、職員も一緒に食事し、楽しい雰囲気になっています。又、外食や野外での焼き肉等も取り入れながら楽しみを支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的ではあるが、糖尿病のある方には糖分控えめ、高血圧の方には塩分控えめ、水分を多めに摂取していただき、持病の悪化を軽減できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には自由だが、介助や声掛けが必要な方には支援を行っている。口腔ケアに拒否が見られる方にはうがいのみだけだが、入念に行うにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じて遠目で見守りを行う等して、失敗しないような声掛けや助言を行っている。また、尿取りパットやおむつを多用するのではなく、フラットタイプのシートを活用しコストの削減を実践中。	排泄記録を取り、排泄介助や見守り等を行い、トイレでの自立排泄に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳・ヨーグルト(オリゴ糖入り)を提供している。また下剤の副作用を考慮し、排便-4日目に少量から下剤を服用していただいている。他、腸へ刺激を与える為歩行も促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日に対しての不満は聞かれないが、時間帯にたいしての訴えがあった為、その方の希望する時間帯(夕方)に入浴していただいている。	週2回の入浴を基本に、利用者の生活習慣に合わせた支援に努めています。入浴剤を使用し、楽しめる入浴になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由だが、入居者の状態を見極め、必要に応じてこちらから小休憩という形で昼寝をしていただく等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば起こり得る変化を予測し、各職員に周知し、変化の有無を観察するよう指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の能力を見極め、食器拭きや洗濯物たたみや食事の盛り付け等の家事を手伝っていただいている。また趣味を継続できるように金銭面の管理や物資の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば状況に応じて散歩に出かけたり買い物に行く等の対応をしている。また地域の催し物等があれば極力参加している。	日常的な散歩や買い物の他に、花見・外食・町内会盆踊り・ドライブを兼ね紅葉見学・菊祭り見学・本人の生まれ育った場所へ出掛けるなど、多くの外出機会を設け、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	趣味やその他にかかる費用を考慮し、ご家族に相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙で連絡をしたいという訴えは無いが、電話で連絡したいという訴えがあった場合には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は寒さ対策、ヒートショック対策として脱衣場に2台の簡易式ヒーターを設置している。また、洗面所にはセンサー式の照明を設置し、夜間帯でも洗面所の位置を把握できるよう配慮している。リビングは歩行スペースを居力広くとれるよう食卓テーブルの配置を工夫している。	店舗兼住宅だった建物を改修した事業所で、利用者が居心地の良く安全に過ごせるよう、又、利用者にとって使い易い配置の工夫がされています。リビングの壁には利用者の手作りの作品や行事の写真が飾られ、穏やかで家庭的な雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の精神・身体状況を常に把握し、その時の状況に合わせ居室へ誘導したり、少し離れた場所へ誘導し対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・食器類を持参していただいている。また、昔のアルバム等も必要に応じて持参していただいている。居力在宅に近い雰囲気演出できるよう心掛けている。	居室には本人の使い慣れた家具やアルバム、家族の写真等が持ち込まれ、本人らしく安心できる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者の能力を考慮し、居室の移動や食事席の変更を行いバランスを取っている。また、歩行の妨げにならないよう、無駄なものは極力設置しないようにしている。		